

小学4年 体育科「幅跳び」

柏市立大津ヶ丘第一小学校 杉山 雄太

1. 単元目標

○運動の行い方を知り，短い助走から強く踏み切って遠くへ跳んだり，高く跳んだりすることができる。（知識及び技能）

◎自己の能力に適した課題を見付け，活動の仕方を工夫したり，考えを伝え合ったりすることができる。（思考力・判断力・表現力等）

○幅跳びに進んで取り組むとともに，友達と教え合いながら練習することができる。

（学びに向かう力・人間性等）

2. 情報活用能力育成をめざす単元づくり（全6時間扱い）

（1）単元について

①運動の特性

・3～5歩程度の短い助走から強く踏み切って遠くへ跳んだり，高く跳んだりすることを楽しめる運動である。

②情報活用能力育成について

・児童1人1人がNHK for school やウェブサイト，本などで活用収集し，収集したポイントをJamboard にまとめる。練習の際まとめたものを見返しながら活用したり，自分の跳んでいる様子と比較したりすることで情報活用能力を育成していく。

（2）学習計画

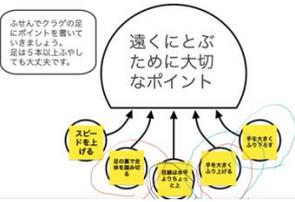
	時	学習内容	留意点
1 課題の設定	1	○はじめの記録を測定する。	・跳ぶ姿を自分の端末に撮影する。 ・記録は実測で測定する。
2 情報の収集	家庭 学習	○NHK for school など幅跳びの記録を向上させるための材料を児童それぞれが集めてくる。	・集めた資料をJamboard に整理し，練習で活用できるようにする。
3 整理・分析	2～5 本時 4	○幅跳びの練習をする。	・家庭学習で作成したJamboard を使い，自分の課題を明確にしながら練習する。 ・Jamboard を振り返ったり撮影しあったりする等，課題を解決するために端末を活用するよう指導する。
4 まとめ・表現	6	○まとめの記録を測定する。	・これまでの練習を基に，めあてを明確にして臨めるよう指導する。
5 振り返り・改善		○学習を振り返る。	・動画を撮影し，はじめと比べてできるようになった事を振り返る。

3. 本時について (本時 4/6 時間)

(1) 本時の目標

- 自分の課題を明確にし、それを解決していくためにタブレット端末を活用して活動の仕方を工夫したり友達と考えを伝え合ったりしながら練習を重ねていくことができる。
(思考力・判断力・表現力等)

(2) 本時の展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点
導入 10分	<p>1. 【全体の学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動をする。 ・場作りをする。 ・本時の流れを説明し、共有する。 	<p>【タブレット端末】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●すぐに活動に取り掛かれるように事前に Jamboard を立ち上げておく。 ●Jamboard に調べたポイントを載せておきいつでも確認できるようにしておく。 ●Jamboard のペン機能を使い、クラゲチャートに整理したポイントの中から本時に意識したい課題を赤丸で囲む。その後、近い目標の児童同士で集まらせてどうすれば良いかを話し合うよう指導する。 ●撮影や話し合い、資料の確認など試行錯誤しながら端末を活用できるように助言を行う。 ●途中で記録を測定しても良いことを伝える。 ●文字だけではなく写真なども入れながらまとめても良いことを助言する。 ●時間がかかりすぎないように短く、簡潔な言葉でまとめられるよう指導する。 ●遠くまで跳べるようになった理由などを分析しながら発表させる。 ●学習をまとめ、次時の課題へつなげる。
展開 ① 5分	<p>学 課題を解決しながら遠くにとぼう</p> <p>2. 【個の学び①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Jamboard を活用しながら自分の課題を確認する。 	
展開 ② 25分	<p>3. 【協働の学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅跳びの練習をする ・友達と撮影しあったり、自分の動画や Jamboard を確認したりしながら練習をしていく。 	
	<p>4. 【個の学び②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりを Jamboard に打ち込む。  	
終末 5分	<p>5 【発表や話し合い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で考えを交流する。 ・ふりかえりを発表する 	

(3) 情報活用能力のプロセスと育成を図るポイント

課題の 設定	情報の 収集	○ 整理・分析 ◎	まとめ 表現	振り返り 改善
-----------	-----------	-----------	-----------	------------

○情報の収集のポイント

Jamboard を活用し、各自が家庭学習で学んだ遠くに跳ぶためのポイントを付箋を活用しながらクラゲチャートにまとめていく。また、クラゲチャートだけでなく児童が学んだことを写真なども活用しながら自由に表現できるページも用意しておき、事前の学習を深めさせていく。情報収集のヒントは与えつつも児童が自ら必要な情報を探す姿を大切にしていきたい。



◎整理・分析のポイント

家庭学習で児童 1 人 1 人が作成した資料を練習の中で自由に確認できるようにしておき、練習に生かしていく。また、タブレット端末を活用した撮影や分析と合わせていくことで自然な学び合いが起こっていくようにしていくようにしたい。分析をする際、手軽に書き込みができるのもタブレットの良さである。屋外での利用となるため端末操作をなるべくシンプルにすることで運動時間をしっかりと確保できるよう留意していく。

○本時で活用した Jamboard

https://jamboard.google.com/d/1q7mhgZ4MY_7tc8pvcLqJ2JZKrpQLvW4z-jJwaLvaGt4/edit?usp=sharing

実践を終えて

第 1 時で多くを指導せず、まずは跳んでみる、記録を測定するといった活動を行い、その後の「情報の収集」を家庭学習として実施した。児童は集めた情報を Jamboard に整理してきてより遠くに跳ぶための材料とさせた。児童が集めてきた材料は授業で扱った経験がある NHK for school のものが中心ではあるが、自身で別の Web サイトや動画を発見してまとめたり保護者にアドバイスを求めそれをイラストにまとめてくる子がいたりするなど工夫されたものがあった。集めた材料はクラゲチャートによるキーワード化+自由なデジタルノートの 2 種類のまとめ方をさせ、クラゲチャートは授業の冒頭に今日のめあてを確認するために使用した。「うでのふり」「目線」などを児童が言語化しながら練習に取り組むきっかけになっていた。実際に幅跳びを練習するための端末の活用の仕方と児童それぞれに委ねた。動画を撮影して個人や協働で分析する、手本の動画を見返す、上手な友達の姿を撮らせてもらうなど、上手く使えている児童に価値づけを行いながらも児童が自分で見出せることを目指した。ポイントを意識することでフォームが整い、記録が伸びた児童が多く見られた。体育が苦手な児童も自分なりにフォームを意識する事で導入時と比較すると大きな変化が見られ、最後まで熱心に取り組み、意欲を継続させることができた。また、児童が打ち込んだふりかえりを見ると自分の動画のスクリーンショットを挿入し、成果や課題、次時へのめあてを記述できている児童もあり、端末活用の効果を感じられた。タブレット端末を外で活用するためにブルーシートを校庭に置いた。体育で活用する場合は置き場所の工夫による端末の保護、Wi-Fi の届く範囲の確認、安全に使うための指導が必要である。

